

## 「慶北大学校サマースクール参加報告書」

京都大学文学部 2年 佐藤祐生

今回の派遣によって、国とは何なのかということについてより分からなくなりました。

この度韓国へ行き、韓国と日本の文化は非常によく似ていると感じました。自分以外にも、他大学の日本の学生も「言葉は違うけど、海外に来た感じがあまりしない。」といったことを皆、口をそろえて言っていました。確かに、お皿を置いて食べるとか、食事が一人前で出てこないとか、文化の差異は非常にありますが、雰囲気として非常によく似ているものがあると思いました。また、韓国の行く先々で「日本から来ました」と言うと、「ようこそ」と非常に歓迎してもらいました。この外国人に温かい感じも日本の関西の雰囲気によく似ていると思いました。しかし、日本のマスコミの報道を見れば、日韓の政治的対立からか、まるで全く文化が異なっていて、全く異なる考え方を持つかのような印象を受けます。今回の派遣で出来た韓国の友人に聞くと、韓国でも日本に対して良い報道はされていないようです。私的な関係では仲良く出来るのに、公的な国家間の関係では不仲になるのは、国家が国民全体の意志を単純に反映するものでなく、過去の因縁や未来の国民の利益を統合するものであるためであると思うのですが、韓国と日本が政治的に対立することが両国の国益のために最善なのでしょうか。正直全くよくわかりませんが、それゆえに考えれば考えるほど複雑でわからなくなる「国家」というものに今回のプログラムでますます興味を持ちました。

今プログラムでは、韓国の文化体験や、大邱市内の様々な所へ連れて行ってもらう大変充実したものになりました。しかし、不満を挙げるとすれば、韓国語の授業で、韓国語の授業では学習経験者と初学者がちょうど半々ぐらいだったのに、クラス分けをせず、初学者と経験者が同じクラスで一から学びました。そのため、韓国語学習経験者は皆退屈そうにしており、その時間が非常にもったいなかったと思いました。やはりクラス分けをするなどして、来年にはこの点を改善していただけたらと思いました。

今回の派遣は私にとって非常に良い経験になりました。私の大学生活はあと2年半程残されています。今プログラムでの体験、この気づきはこれからの大学生活の学びに是非とも生かして行きたいと思います。そして、今回の海外経験で満足するのではなく、食欲に機会があれば他の海外プログラムに参加するなどして、自分の視野を広げていきたいと思いました。

最後に、このような機会を下さったいろいろな方々には本当にお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。